

Frohe Ostern ♡ イースターおめでとうございます。

お祈りありがとうございました。予定通りに4月4日にドイツに戻って参りました。寒さはまだ残っていますが、留守中に冬時間から夏時間に切り替わって(日本との時差は8時間から7時間)、新緑も目にするようになり、小鳥の美しいさえずりを耳にしています。ハンブルグの農場の近くに住んでおられる教会の方が、冬の間、牛小屋で生活していた乳牛が、放牧された動画を送って下さいました。あの大きく重そうな牛が、かるやかにスキップするような様子です。自由に跳ね回る牛たちの喜びが伝わってきました。人も動物も嬉しい春がやって来たのだなぁと、感動しています。

日本滞在中は、多くの方々色々な愛に支えられて、全ての日程を終えることができたことを心からお礼申し上げます。久しぶりの一時帰国でしたので、とても欲張った過密スケジュールでしたが、正にあの放牧された牛のように、喜びながら飛び跳ね回る毎日でした。一つひとつの出会いがドイツでの働きの大きな励みとなって戻って参りました。日本での様子は、近日発行予定のニュースターにて、報告いたしますので、お目を通して頂けたら嬉しいです。

ドイツに戻って直ぐに教会の皆さま、そしてベルギー・ブリュッセルの日本語教会の方々と合同でイースター礼拝をお捧げいたしました。私たちの教会で、今年のクリスマス頃から体調を崩していた姉妹が、私が日本へ飛ぶ頃に、ようやく原因が分かり少しずつ回復されていましたが、日本から戻った時には治療が功を奏し、お元気になって皆さまとご一緒にイースター礼拝をお捧げし、また数日後には、私の自宅まで歩いていらっしゃいました。正にイエスさまのご復活と共に、姉妹も復活されたことは、今年のイースターの大きな喜びとなりました。つくづく思うことは、教会の方が皆さまお元気で一緒に礼拝をお捧げできるということは、それは、それは教会にとって大きな祝福であるということです。

そして、私は日本滞在中、どこでも歓迎して頂き、日本の美味しいお料理を頂き、心からのおもてなしを受けて、身に余る勿体ないほどの光栄な日々でしたが、粗食のドイツでも、教会の方々と過ごすケルンの地が今の私には、一番心地よい場所であると実感しています。ミュンヘンからケルンへの乗り継ぎのために空港内では小さなバスに乗りました。廻りは大きなドイツ人ばかりで、勿論話している言葉はドイツ語ですが、その中に埋もれている空間の心地良さを感じながら自宅へと戻って参りました。

また、ドイツでの宣教が始まりました。今迄担っていたママの会は、また振り出しに戻ります。教会のこれからの方向性も見出していかねばならない状況です。これからも心の片隅に覚えてお祈り頂けると嬉しいです。お支えくださり、ご一緒に宣教の業を担って頂いている皆さまと共に主の御業を褒め称えることができたなら幸いです。敬愛する皆さまの上に主からの祝福をお祈りもうあげます。

ホームページにはドイツの様子がわかる写真も掲載しています。過去のメールマガジンも見やすくなりましたので、是非ご覧ください。<http://www.komatsugawa-ch.com/Pfarrerin-Ryokosasaki/mailmagazine.html>

羽田→ミュンヘン→ケルン

ぐるりと南廻りで乗り継ぎながら16時間あまり・・・
機内では一足先に**イースター**のチョコをいただきました。



ド～んと、
ケルン大聖堂の前のイースターエッグ

